

19世紀アメリカにおける無償幼稚園の保育実践と教員の専門性 —子どもの守護者としての教員—

Educational practices and teacher specializations in free kindergarten education of the 19th century in America —The protective role of teachers for children—

橋川 喜美代*
HASHIKAWA Kimiyo

本稿は19世紀アメリカのフレーベル主義幼稚園の2つの流れを代表するブローら公立幼稚園と、無償幼稚園の指導者であるケイト・D・ウィギンの保育実践を対比しながら、教員の専門性としての人間性の違いを明らかにすることを目的とする。シルバー・ストリート幼稚園の開園当初、浮浪児たちはウィギンが計画した活動の流れを打ち砕き、予想を超える腹ただしさと辛苦を彼女に与えた。思い通りに進めようにも進められない状況に追い込まれる中、マーウェデルから学んだフレーベル主義教育の原点に立ち返ったウィギンは、目の前にいる子どもたちに何が必要であり、自分に何ができるかを考え、真剣に子どもたちと向き合わざるを得なかった。この子どもを信じ、要求に応えようとする姿勢がフレーベル主義者ブローの保育実践との大きな相違をもたらした。

This paper compares educational practices of public kindergartens run by Blow and others — representing the two trends in the 19th century Froebelian doctrine of kindergarten education—and Kate Douglas Wiggin, who advocated free kindergarten education. The purpose is to clarify the differences in the humanity levels of practitioners of these two different schools of thought. At the time the Silver Street Free Kindergarten was established, homeless children sabotaged her project, causing her greater-than-expected hardship and angst. Caught in a situation where she could not implement her plans as she had wished, Wiggin had made a return to the original educational perspective represented by Froebel, which she had learned from Marwedel; however, considering what the children needed and what she herself could do, she felt she had no choice but to truly face the children. Believing in the children and striving to meet their needs, she elected to take a stance that resulted in great differences with Blow, who was aligned with the Froebelian doctrine.

キーワード：無償幼稚園，幼稚園教員の専門性，ケイト・D・ウィギン

Key words : free kindergarten, kindergarten teacher specialization, Kate Douglas Wiggin

はじめに

アメリカにおける1870年代からのフレーベル主義幼稚園の発展は、貧困・犯罪・衛生といった都市問題と対して語られてきた。幼稚園は大都市のスラム街に放置された貧児の救済事業として、万能薬のごとく宣伝され、各地に発展していく。この発展過程は、小学校への効率的な準備教育を目指す公立幼稚園と、各地の博愛家たちによって支援された無償幼稚園という2つの流れに分かれながら、やがて公教育体系に編入されていく。無償幼稚園は、スラムの子どもが欠如しているしつけや、秩序ある行動を教えることによって、将来の善良な市民の育成を目指すのみならず、人類の道徳性の再生に向け、親を巻き込み、家庭は言うに及ばず、社会改良の手段として期待された。こうした無償幼稚園やその設立を助けた幼稚園協会は、結婚や家庭に縛られてきた女性達の社会

的活躍の場であるとともに、その専門性の確立が目指されていく。

ところで、教員の専門性は、「行為の中の省察」という実践的認識を基盤としたドナルド・ショーン (Schön, Donald A.) の「反省的实践家」の概念によって論議が活性化したように、保育においても、保育者の成長と専門性の論議が進められてきた¹⁾。「保育者の成長と専門性」と題された雑誌『発達』の特集は、保育者の専門性を多様な観点から明らかにしている²⁾。松平は保育の歴史を辿り、幼稚園草創期の保母やキリスト教宣教師らの専門性として、フレーベルの幼稚園教育の思想と方法への深い理解、とりわけ「神に近づくには幼子のようにあることが必要である」という幼児の存在を重視したキリスト教や、それに基づいたフレーベルの教育観、人間観を挙げている。そして、宣教師やキリスト者らの生き様

*兵庫教育大学大学院人間発達教育専攻幼年教育コース

平成25年10月31日受理

の特色として、次の2点を強調している。まず、いかなる困難に遭遇しても、キリストへの召命と献身を貫き通し、「偏見や差別、政治的無理解、財政的困難などの悪条件と戦いながら子どもたちを守り、その幸せを作り出すためにあらゆる努力を」惜しまなかった点にある。さらに、彼女たちが「祈りつつ堪え忍ぶ実践者であったと同時に、必要に応じて果敢に戦う戦士でもあった」という点である³⁾。また、鯨岡は保育全体を3つの断面に分け、それぞれの断面を遂行する保育者の3つの専門性を明らかにしている。まず、保育全体は、①理論的・理念的な見通しのもとに「これから」の保育を計画する、②「いま・ここ」の保育を実践する、③実践を「ふりかえり」評価し反省する、という3つの断面に分けられる。そして、それぞれの断面に対応して、①計画・立案、②目標実現に向けた「受け入れ・認め」つつ、「教え・導く」という両義的対応、③反省＝省察、という3つの専門性が保育者に求められる。しかし、この分断された3つの専門性は、保育者の人間性を磨くことによって感性的色づけがなされるのだと、鯨岡は指摘している⁴⁾。鯨岡同様、保育者の人間性を問うているのが津守である。津守は、周知のように保育研究者である。その津守が保育実践者でもある自らの歩みを振り返り、子どもが会うのは、「専門家の私」ではないという。「ひとりの人間の私」が子どもと出会うという事実を強調しながら、子どもの表現を読み取る力や、物的環境の整備を想像力をもって変えてゆく点に保育者としての専門性を求めている⁵⁾。

このように保育者の専門性において避けられないのが、保育者の人間性にある。本稿は、小学校への効率的な準備教育を目指すブロー (Blow, S.) から公立幼稚園と、1878年に開設されたシルバー・ストリート幼稚園の指導者であるケイト・D・ウィギン (Wiggin, Kate D.) の実践を対比しながら、目標実現に向けた「受け入れ・認め」つつ、「教え・導く」という両義的対応に込められた保育者の人間性を明らかにすることを目的とする。ドイツ人幼稚園指導者エマ・マーウェデル (Marwedel, Ema) から指導を受け、西海岸初の無償幼稚園の指導者に抜擢されたウィギンは、シルバー・ストリート幼稚園の成功によって、アメリカの幼稚園運動を飛躍的に促進させた。ウィギンはスラムの住人から子どもの守護者と呼ばれ、「現実の社会の悪から子どもを保護し、さらに社会改良の一端をになうことが幼稚園の生命と考え」⁶⁾ た幼稚園教員である。ウィギンの保育実践から彼女の人間性を明らかにすることは、「いま・ここ」の子どもの生活を重視した保育の解明にも繋がるものと考えられる。

第1章 フレーベル主義幼稚園受容の2つの流れ

アメリカの幼稚園運動は1856年、ドイツ移民のマルガ

レーテ・シュルツ (Schurz, M.) がウィスコンシン州ウォータータウンに開設したドイツ語幼稚園に端を発している。これは、フレーベル直伝の幼稚園理論と実践に基づき、子どもたちにドイツ人としての国民性を伝えるための小さな園であった⁷⁾。1859年、ボストンで開催された集会において、シュルツと娘アガテと出会ったピーボディ (Peabody, E. P.) は、アガテの子どもらしい育ちに共感し、その旺盛な精力をもってフレーベルの教育哲学を学び、幼稚園運動に残りの人生を捧げる決心をした。1860年、アメリカ初の英語幼稚園を開設したピーボディは、その人気とは裏腹に、教育的経営に行き詰まりを感じた。ピーボディは1867年、この行き詰まりを打開するため、訪欧の旅に出た。彼女の目的は、ドイツ人幼稚園指導者たちを招聘し、幼稚園の教員養成を本格的に開始することにあった⁸⁾。

1. 公立幼稚園確立までの道のり

難航する幼稚園受容の道を切り開いたのが1876年、フィラデルフィアでアメリカ独立百年を記念して開催された万国博覧会であった。博覧会における幼稚園の公開保育が、幼稚園を大衆化させる契機となった。全国組織を持たない幼稚園に関する宣伝を盛り上げるため、ピーボディはボストン・フレーベル協会 (Boston Froebel Society) を使って支援に乗り出した。ロンドン・フレーベル協会 (London Froebel Society) を模範として結成されたボストン・フレーベル協会の目的は、①私立幼稚園と養成校を設立して、フレーベルの理念を普及させること、②ピーボディが1873年に創刊した『幼稚園の使者』 (Kindergarten Messenger) の出版を助成すること、③女性たちの研究グループや“親連合” (Parens Union) を結成し、幼稚園設立を促進すること、にあった⁹⁾。

ボストン・フレーベル協会の推薦を受けたバリット (Burritt, R.) は女性館別館において、18人の孤児たちを対象に「百周年記念幼稚園」 (Centennial Kindergarten) を開き、保育の実演を行った。この実演は大変な評判を呼び、見物席には楽しい合唱や愛らしい光景を一目見ようと人が群がり、質問のために数時間もその場を離れなかったという¹⁰⁾。大成功を取めたバリットとは対照的に、ブローによる「セントルイス幼稚園」は難解な手仕事に対する厳しい評価を受けていた。視察に来ていたピーボディも、ブローの保育が観衆に暗い印象を与えていた事実を報告していた¹¹⁾。

こうした万国博覧会の様子から分かるように、フレーベル主義幼稚園の受容は既に2つの流れが生まれていた。1つはブローらセントルイス市の公立幼稚園を源としたフレーベル主義保守派の流れである。2つ目はドイツ人幼稚園指導者マーウェデルから生じてくるカリフォルニアの無償幼稚園運動の流れである。前者から見ておこう。

1873年、セントルイス市にアメリカ初の公立幼稚園が設立される。この開設に尽力したのは当時の教育長ハリス(Harris, W. T.)とブローの2人であった。ハリスにとって教育とは、制度の中で個人に「社会的全体」としての人間を自覚させていくことであり、家族、学校、市民社会、国家、教会という5つの制度が相互に補完し合っており、教育的機能を果たすものと考えられた¹²⁾。ハリスはこうしたヘーゲル哲学の観点から、幼稚園の恩物・作業、遊戯・ゲームを次のように評価した¹³⁾。

「幼稚園は、それが恩物や作業を教えているとき、良く役立っている。というのもそれは手段と道具性の世界を取り扱い、子どもが自然を征服するのを助けるからである。幼稚園は遊戯・ゲームによって、より良く役立っている。というのも、それらはその特性において、徹底して人間的であり、子どもたちに生活の問題を解釈する上での、人類の経験的知見を象徴的な形で与えてくれるからである。」

子どもたちは、遊戯・ゲームにおいて、自らの社会的自我を意識し、自らを社会全体の一員と見るようになる。ハリスは子どもが自然の世界から人間の世界へ、物質的で世俗的な世界から霊の世界へ、遊戯・ゲームの集団内に次第に現れてくる高次で一般的な社会的自我を意識してくる点を評価したのである。そしてハリスは、「この意識が芽生えると、象徴的な精神的傾向は知的、道徳的活動というより高次な形式に道を譲り、子どもは小学校の教授を受け入れる準備態勢が整えられる」のだと主張した¹⁴⁾。

さらにハリスは、「非常に貧困な家庭では、子どもは街路で仲間との社会を構成し、犯罪へと導かれている。彼が入学するまでに、彼は学校の力では根絶できないような邪悪な習慣を身に付けてしまう¹⁵⁾」が、「もし不道徳で節度を守れない子どもたちが3歳の時に幼稚園において教育されるなら、投獄される代わりに、社会にとって建設的な仕事を成し遂げる」可能性があるとして、恩物・作業、遊戯・ゲームの教育的意義を強調した¹⁶⁾。つまり、都市の貧児が、街路において悪徳や墮落を身に付けることから保護する手段として、幼稚園を位置づけたのである。

また、ハリスは自己活動を重視しながら、その過度な強調が自己本位を助長し、「気まぐれで好き嫌いの激しい独裁的な暴君を生み出しかねない」とロマン主義的な子ども観に警告を発し、優秀な教師による指導と制限を強く求めた¹⁷⁾。難解な手仕事への非難が万国博覧会で公開した保育に与えられたのも、厳格な恩物の教授系列に加え、大人の側からの一方的な期待を拡大させ、子どもの社会的背景や発達を無視した一斉画一的指導に陥っていたからである¹⁸⁾。近隣の貧児に幼稚園を開放しようとしたセントルイス市の実験は、子どもをその生活圏から

引き離し、極めて入念に練り上げられた人工的な空間たる幼稚園に囲い込み、日常的な世代的再生産過程から隔離する結果をもたらすことにもなった¹⁹⁾。

ブローは『象徴的教育』(Symbolic Education: A Commentary on Froebel's "Mother Play")において、フレーベルが『母の歌と愛撫の歌』に込めた「生の合一」を象徴的に解釈する²⁰⁾。同書の「塔の上の子どもたち」を用いたゲームを例に、社会的自我の意識化が目指される保育の実践を見ておこう²¹⁾。

あなたが遊んだ一つひとつを
つなぎ合わせて魅力的な全体にまとめてもらな
さい。
一人で遊ぶのも楽しいが
仲間と一緒に遊ぶのはもっと嬉しいものです。
一輪の花を見るのも好きだが
さまざまな色の花輪を見るのはもっと好きです。
子どもはどんなに幼くとも
全体の一部であることをすぐに感じ取るのです。

子どもは円陣になって、身振り付きで詩を復誦する。社会的結合や共同生活の倫理的価値が言葉や行為として発表される中、子どもは社会的自我を意識化するよう期待される。しかし、この詩は「塔の上の子どもたち」に添えられた標語であり、本来、子どもの特性を洞察・認識すべき母親に向けて書かれたものである。つまり、これは「お互いに会ったその時は」という歌詞を合図に、互いに手の平を打ち合わせる「腕と全身の姿勢、上膊関節運動」をねらいとした母と子の遊びである。フレーベルは、母親が挿し絵や手の動きによって、神から見守られている感謝の気持ちを喚起し、子どもの内面的な生活を育めるように、先の標語を添えたのである。子どもがこれを復誦し、円陣を整える中で、社会的結合を教えるために書いたのではない。ブローの実践では、この点の認識が不十分である。

こうした解釈から、セントルイス市の公立幼稚園では、遊戯・ゲームに込められた社会的結合や集団生活の倫理的価値観を円陣、身振り、難解な詩の復誦という形式をもって、余すことなく子どもに感じ取らせようとした。形式化はやがて、円陣に込められたシンボリズムの強調となり、ゲーム開始時に円陣をかたどった線上に、子ども全員をつま先がきちんと付くまで、十分間ただじっと待たせることを平然と行う園を出現させたのである²²⁾。

1881年1月から6ヶ月間、ブローのもとで研鑽を積んだハリソン(Harrison, E.)は、こうした形式的な教授法に陥る原因を次のように解釈している²³⁾。

「フレーベルが『母の歌と愛撫の歌』に記した教えに傾倒するブローを理解する少数の者にとって、彼女は常に感動の源であった。しかし、学生の多くは基本的な原理を理解するのではなく、詳細に把握した外見上の仕事だ

けを教え、教育的環境の選択、経験、子どもたちの文化的背景を基礎づけている創造的な仕事に必要な柔軟性と自由に欠けていた。その結果、彼らの仕事は形式的で、創造性を欠くものとなった」という。

ハリソンの指摘を勘案するとしても、ブローらによる保育実践は子どもの要求を「受け入れ・認める」観点が極めて弱く、目標実現に向けた「教え・導く」観点からの規律遵守が強く求められたことは明らかである。

2. ドイツ人幼稚園指導者マーウェデルによる教員養成の実際

マーウェデルはフレーベルの未亡人ルイーゼから幼稚園教育を学び、ハンブルグの女子産業学校付設幼稚園の指導者であった1867年、ピーボディの訪問を受けた。ピーボディの招きで来米したマーウェデルは1871年、ワシントンで幼稚園教員養成校を開校。1877年には、ボストンでピーボディを通してフレーベルの幼稚園教育を学び、熱心な運動家であったキャロライン・M・スィバーランス (Severance, C. M.) の支援を受け、カリフォルニア・モデル幼稚園と太平洋モデル養成学校を開校した。ウィギンを含む学生3名と4～7歳児25名が対象であった。

ウィギンの自伝 *My Garden of Memory: An Autobiography* からマーウェデルの教員養成の実際を明らかにしておこう。1876年、ケイトは医師であった継父が亡くなり、生計を立てる必要に迫られた。1877年夏、ウィギンはスィバーランスと知り合い、マーウェデルの幼稚園教員養成学校への入学を決意した。スィバーランスは、音楽や物語の語り手として頭角を現していたウィギンに、幼稚園教員としての生来的力量を感じ取ったのである²⁴⁾。

自伝の中で、「小さな教師」というサークル・ゲームが忘れられない印象をもたらしたと語っている。これは新しい仲間と手を取り合って輪になり、一人の子どもが中央に出て自由な動きをする間、「小さなハリー（子どもの名前）を見てご覧。私たちにゲームを教えてください。小さなハリーを見てご覧。さあ、私たちが同じことをしましょう。」と歌いながら、輪の子どもたちも同じ動作をするという遊びである。音楽に秀でていたウィギンが、マーウェデルに代わって、簡単な旋律を弾きながら歌うと、子どもたちはわずか2分ほどで覚えた。マーウェデルが輪の中央に出てやりたい子を募った途端、エドガーが踊り出た。エドガーは皆を出し抜いて注目されたかっただけで、どんな動きをするかなど考えてもいなかった。マーウェデルがヒントを与えたが、その動きは足を上げたり下げたり、腕をあちこち振り回すだけで、とてもリズムカルであるとか、美的であるとは言い難いものであった。エドガーは次の教師をサークルの中から指名するように言われた時、「もう一方の腕で同じよう

にしたい」と不満をもらしながらも、ベルサを選んだ。ベルサの動作は淑女らしい礼儀にかなったお辞儀であった。女優のようなセンスで、ベルサは魅力的なお辞儀をやっていた。サークルの私たちが急いでその動きに倣ってお辞儀をしたが、男児たちは足を突きだし、幾分男性的にやろうと試みた。また、幼い女児たちは足を後ろに引いて頭を下げ、鋭い胃痛を味わっているような格好であった。私たちはベルサの優雅さに近づけようと、子どもたちにお辞儀をする方法を教えた。予期せぬベルサの優雅なパフォーマンスは、マーウェデルに「始まってまだ2日だというのに、私たちの子どもたちは発明の才を発揮しています。子どもを導く方法がこれでわかるでしょう。」と唸らせた²⁵⁾。

クラッカーとミルクで軽い軽食の後、粘土細工の時間が30分間続いた。ニンジンとカブを作る予定であったが、4歳児が本物の豚が居るのに気付く、即刻変更された。エドガーは見事な豚を作り上げた。こうした手仕事を観察したウィギンは、器用な子どもたちは材料を手際よく使いこなし、短時間で作品に仕上げていることに気付いた。その様子から、器用な子どもたちが4歳児の作業や、余分な湿気で泥化し塑像できない不器用な5歳児数人を手助けできるのではないかと考えた。子どもは小言を言われることもなく、知らず知らずのうちに学んでいく。自分のために2匹の豚を作ることより、未熟な仲間や弱者の手助けができる人に育てようとする幼稚園の手仕事は、常に報酬であって、決して苦行とはならない。ウィギンは、そこにはより秩序だった親密な世界があるに違いないと確信したのである²⁶⁾。

12時、帽子が配られ、子どもたちは列に並んだ。エドガーの帽子はまるでぶつかったかのように頭からずり落ちていた。驚きと喜びで泣き出さんばかりのマーウェデルが見守る中、子どもたちはケイトの伴奏にのって行進しながら、降園していった。ウィギンら学生たちの講義は昼食の後、2時から行われた。講義はマーウェデルが講義用ノートを置き忘れるというハプニングで始まった。彼女の話はそのために少々動揺して取り留めのない所もあったが、フレーベルの生涯と業績に興味深い、共感的な素描にとりまとめられた。ウィギンはスィバーランスから既に借りた本で前もって学んでいたこともあって、マーウェデルの英語力や体系的な欠如した話にも、十分に対応することができた²⁷⁾。

ウィギンは数日間の子どもの観察から、サークル・ゲームは単調な詩句で想像力を刺激するものではないが、見知らぬ子どもたちをある共通した活動へと統一して行く上で効果的な手段となることを発見した。エドガーを含む25人一人ひとりの観察は飽きることはないほど楽しいものと感じられた。エドガーの協調性を欠いた様子は、大人の枠組みからすれば、問題行動として捉えられる。

しかし、彼を責任ある立場に置き、掃除や花壇の水やり、作業用の封筒集め、行進の線引きなど、人目に付く装飾的なサービスを任せるなら、彼の意のままにしたいという思いを伸ばせるに違いないと思われた。マーウェデルの指導は、すべての学生に満足を与えたわけではないが、ケイトに人生で初めて自分が何かやれる明確な手がかりを掴んだという興奮をもたらした²⁸⁾。

自伝からも明らかなように、マーウェデルは幼稚園での実践を踏まえながら、目の前の子どもをよく見るよう学生たちに要求した。この共感する姿勢を土台に、子どもの心に寄り添って観察することによって、ウィギンは問題行動に走るエドガーの中に、その成長への方向性を明確に見出している。しかも、ウィギンは子どものもつ素晴らしさばかりでなく、保育の難しさをも極めて具体的に記している。作家を志していたウィギンだからこそ、このように具体的に記録が書けるのかもしれないが、観察する力がなければ記録することもできない。マーウェデルの指導は、ウィギンの記録する力と観察力を高めるものであったと言える。そして、このマーウェデルの指導こそがブローラフレール保守派とは一線を画する保育実践を展開させたのである。

第2章 無償幼稚園の開設と子どもの守護者としての幼稚園教員

1878年7月、ニューヨークの倫理文化協会の会長、フェリックス・アドラー (Adler, F.) はカリフォルニア州サンフランシスコで、幼稚園の開設を訴える講演を行い、サンフランシスコ公立幼稚園協会が設立された。そして、スラムにある古い小学校の建物、2部屋を借り受け、整備された西海岸初の無償幼稚園が9月1日に開園された。マーウェデルの養成学校を卒業したウィギンが、マーウェデルの薦めで、この幼稚園の最初の教員となった。「ウィギンと妹ノーラ・スミスによって指導されて有名となったシルバー・ストリート幼稚園ほど広い名声を博し、子どもたちの間でも彼らの家庭においても成功を勝ち得た幼稚園はない。シルバー・ストリート幼稚園でなされた事業は、カリフォルニアにおけるその後のすべての事業の原動力であり、数多くの無償幼稚園や幼稚園協会の結成」に重要な影響を与えたと言われている²⁹⁾。

ウィギンはカウンセラー、医者、母親、看護師、衣食の供給、守護者といった多くの役割を一身で担うよう期待され、期待以上の成果を残した。不衛生で、酒に溺れ、犯罪に走る者が多かった近隣の親たちが衛生的で、酒を止め、美德を示し始めたのである。そうした結果はウィギンへの敬虔な畏敬であり、熱狂的な賞賛によるものであった³⁰⁾。

1. 無償幼稚園開園と堪え忍ぶ実践者の姿

セツルメントや近隣組合などがまだない時代であって、ウィギンは幼稚園が地域のセンターの役割を担う必要性を本能的に認識していた³¹⁾。ウィギンはこの幼稚園が「温室や温室で咲く外来種、寄生体、異国の植物から移植されたものの花園であってはならない。それが近隣の生活に深く根を張る」ためには、自分もまた近隣の生活にその根を張って生きる覚悟が必要だと考えていた。学齢に達する6歳までの子どもたちを集め、家庭との密接な関係が確立できなければ、「親を説得して協力関係も結べないし、一日数時間の世話で子どもたちに影響を与えることなど到底できない」からである。では、どうすれば困窮する生活の中で、酒に溺れ、怠惰に陥っている人々と親密な接触が取れるのか。ウィギンは自問し続けた。

ウィギンが考えた方法は、地域の店で頻繁に買い物をし、そのたびに幼稚園の話をしたり、必要なものを隣人たちから借り受け、助けを求めながら地域の人との関係を繋ぐことであった³²⁾。「私は毎日違ったパン屋に出かけ昼食を買い、また違う乳製品販売店で牛乳を買った。店に入る度に、いつも偶然を装って、新しい幼稚園について語り、その開園日を知らせた。決して、入園を勧誘したりしなかった。私は地域の文房具店で鉛筆、クレヨン、糊を買い、雑貨店で茶色の紙と石鹸、そして金物店でハンマーと鋏などを買った。私は多くのものを借り、借りたものを直ぐに返し、隣人に援助への満足感を与えた。」と語っている。

さらに、ウィギンは近所の人たちにフレールの恩物を披露した。例えば、第7恩物の色板や第8恩物の棒を使ってパターンに並べたり、織紙、絵画、折紙、切り絵、粘土細工等を実演して見せたのである。こうした宣伝効果もあって、ウィギンは店で人を招集する特権を与えられた。そこで、招かれざる家に訪問して嫌がられることも、庇護者ぶって敬遠される心配もなかった。店と家が一軒屋根の下にある場合が多く、子どもたちはカウンターの後ろや下、入り口から通りへと、忙しく出たり入ったりしていた。こうした子どもたちの目は好奇心に溢れ、知りたくてうずうずしている様子であった。女性たちもまた同様であった。

ウィギンは開園まで、家庭訪問を行わず、詰め物の椅子や小さな樽、洗い桶を逆さにして座っていた。完全に「関係の確立」ができるまで、ウィギンは自らの精神的、霊的気分を高めることに専念したのである。「同情心だけで、見知らぬ状況に適応してはならない」。そのためには、状況を単純化し、いかなるものにも気後れせず、あたかもここで生まれたがごとく、完全にその一部となること。うっとうしく思われない援助を与え、どんなことが起こっても決して驚ろかないことが必要である。こ

うしたことが自らを弱々しく感傷に浸らせず、却って自らを陽気にし、強め、元気づけるのだと、ウィギンは考えていた³³⁾。

開園が近づいた時、予期せぬ援助者が現れた。それは12、13歳の少女であった。彼女はウィギンが子どもの歌を歌っていた時、正面の戸からそっと入ってきて、「この場所は何なの？」と尋ねた。ウィギンは彼女にわかりやすく説明した。すると、彼女は「午後、学校帰りにあなたがどんなことをしているのか見に来てもいい？」と聞くので、「勿論」と答えた。「今もここに居て、何か助けてあげられるかしら？」という申し入れに、「喜んで、植物や花のためにお願いね」と頼むと不思議そうであった。というも、彼女はここが「学校だと思ったから」である。「そう、でも新しい種類の学校なの」と説明すると、なおも「本はどこにあるの」と環境の違いに関心を持ち始めた。ウィギンは「子どもたちは6歳以下だから、読んだり、書いたりしないの」と答えてから、子どもたちの縫紙や織紙のために茶封筒にマークを付けて切ったり、色つきの印刷物に銀紙で縁取りし、それを画鋏で壁に貼ったり、幼稚園関連の便りをクローゼットの棚に整理したりした³⁴⁾。

彼女は幼稚園の特別外交員となり、通りの角で母親に熱弁をふるい、園の階段の下に集まった好奇心旺盛な子どもたちの集団を整理させた。そして、「階段を上がって中に入って見てごらん」と彼女は子どもたちに叫んだかと思うと、次の様に付け加えた。「カナリヤや、水槽を泳ぐ魚がいるの。窓には花が咲いていて、ピアノもあるし、沢山の絵もあるの。遊んだり仕事したりするためのものが詰め込まれたクローゼットがある。床に赤い輪が描かれた部屋があって、そこでは行進をしたり、ゲームをしたりするの。」と説明した。さらに、ウィギンのことに触れ、「彼女はピアノを座ったり、立ったりして演奏できるし、週に2日、白い洋服を着るの。私は彼女に、子どもたちの服が恐ろしく汚いよと忠告したら、彼女は自分が綺麗になれば、子どもたちもそうなるのよと言っている。」と述べた。最後に、幼稚園について、これは「日曜学校ではないし、伝道所でも、ロッジでもないの。新しい種類の学校よ。私はこの学校が次の月曜日から始まることを知っている」と、宣伝してくれた³⁵⁾。

こうして集められたシルバー・ストリート幼稚園開園当初の子どもたちと母親の様子は想像を絶するものであった。ウィギンは公的助手もなく、一筋縄ではいかない事情を抱えた40名の子どもたちを相手にすることになった。30名の園児は何事に対しても全く関心を示さず、犠牲者の如く大人しいのに対し、残りの10名は対照的に金切声を上げて怒鳴ったり、泣きわめいている。どの子の母親も、髪を振り乱し、かみつくような目で子どもを見つめ、短気な様子はその上気した赤い顔に現れていた。ウィギ

ンを見る子どもの目は、不安そうに怯え、登園最後の母親が子どもをさんざん殴って立ち去った途端、それまで静かだった数人の幼児が泣き出し、まったく手の付けようがなくなった。

この危機を救ってくれたのが、先の幼稚園特別外交員とも言うべき少女であった。家族の葬儀のために学校から戻っていた彼女は泣いている幼児たちを砂場に連れ出してくれた。教室に戻った静寂もつかの間、子どもの大半が自分の名前と年齢、性別・住所を知らないため、それぞれの確認に手間取る始末であった。やっと教室の前方に年少児、後方に年長児を座らせ、秩序を取り戻したが、子どもの手は余りにも汚く、紙を使わせることはできない。急遽思いついた「石鹸とタオルを持って、庭の手洗い場で手を綺麗にしましょう」というウィギンの提案は、大人しく座っていたくない子どもたちに快く受け入れられた。ところが、子どもたちは理由もなくけ飛ばしたり、殴ったりするため、階段を一行になつて降りることさえ苦勞を要した³⁶⁾。

マーウェデルによれば、その苦勞はウィギンを極度の不安に陥れた。最も野蛮なタイプに属する浮浪児たちは、初日から喧嘩を引き起こし、引っ掻き傷、鼻血や顔の傷を負う者を続出させた。それはウィギンに予想を超えた腹ただしさと辛苦を味わわせたのである。2日目、ほんのつかの間の静寂が悪い予感を募らせた矢先、火災報知器が鳴り響き、子どもたちは近くの火事を見に行こうと慌てふためいて飛び出していった。注意の声はまったく無視された。彼女は思わず抱き止めようと手を出したが、無駄だった。大粒の涙が彼女の睫を濡らしてこぼれ落ち、彼女の顔は悲嘆の表情に包まれた。彼女はサンタバーバラの平和な家庭と学校を捨てたことを心の底から深く悔いながらソファに身を沈めた。しかし、全員の子どもたちは日ごとに不規則な行動を改め、喜んで従うようになった。「陽気なイタリア」の音楽家たちの騒音や、オペラとはとても思えない耳を塞ぎたいような大声も、ウィギンの平静を乱すことがなくなった。数人の子どもの変化は劇的であった。大酒のみで、強い酒を小売りして不安定な生計をたてていた親は、悪意に満ちたいたずらを繰り返して手に負えない4歳の子どもを幼稚園に送り込んできた。彼の野蛮さは幼稚園でも目に付いた。仲間に対して横柄で、ちょっとした挑発で攻撃を繰り返した。身勝手な反抗的な彼は、ウィギンの指図をことごとく破り、彼の出現によって教室は恐怖に包まれた。しかし、彼は仲間を喜んで手助けできる子どもへとつくり変えられ、クラスの人気者への成長していく³⁷⁾。

2. 変容する組織と果敢な戦士としての英断

ウィギンはピーボディの「幼稚園教員とは最も優れた女性、すなわち、技術的かつ知的な力や、道徳的品性の

源泉において神と共に働いている者である。それゆえ、幼稚園教員となるために教育されることは、女子教育に与えられた最高の完結である」という言葉を強調しながら、子どもの自然な感覚や活動から意味深いものへと導いていく生の営みの場としての幼稚園に新しい意味を与え始める³⁸⁾。フレーベルの観点から、母と子の根本的な問題が真剣に論議され、新しい思想の世界が多くの人々の前に開かれた。それは人生に新しい意味を与え、より大きな理想と崇高な目的へと女性たちを突き動かし、それが幼稚園協会叢生をもたらした³⁹⁾。

さて、シルバー・ストリート幼稚園が影響をもたらした最初の協会が1879年、クーパーによって設立されたジャクソン・ストリート幼稚園協会である。クーパーは「放任された子どもたちのために無償幼稚園を設立することによって、より優れた国民性の基礎を確立すること」に自らの伝道の道を見出し、自ら務めていた長老派教会に属するバイブル・クラスのメンバーと謀って協会を設立した。ウィギンはクーパーの訪問時の様子を述懐し、彼女が幼稚園事業を博愛的意義からだけでなく、教育的意義を知的に理解していたと述べている⁴⁰⁾。

ウィギンの妹ノーラ・スミスは幼稚園と教員の関係を庭と園丁の関係になぞらえ、「園丁は不思議な本質が彼の蒔いたあらゆる種に存在し、正しい状況の下で発達することを知っているように、フレーベルはあらゆる子どもが完全な人間になる可能性を持っており、そうした可能性を発達させる状況を与えるのが教員の仕事であることを知っていた。」と強調する。こうした幼稚園教員が雇えないアメリカの小さな町や村の多くでは、熱心な母親が安価なスタイガー社出版のトラクトをテキストに用いて研究する小さなクラブを結成し、「フレーベルの『母の歌と愛撫の歌』、つまり“幼稚園の聖書”が主張する真理を心情ならびに生活の根源にできるまで」研究する必要性をスミスは訴えた⁴¹⁾。そして、それは聖パウロがIコリント13章7節で「大切なのは、植える者でも、水を注ぐものでもありません。成長させてくださる神なのです。」という真理に基づくことだと述べている⁴²⁾。

この真理とは何を意味するのだろうか。ウィギンらが指摘したフレーベルの次の言葉を参考に考えておこう。フレーベルは「それゆえ、愛する女性達。あなたがたの生涯の最大の問題と喜びは、あなたがたの神におけるが如く、子どもと一つであると感じることである。あなたの子どものものの中において一つとなり、外部の世界、人間界、自然界との積極的な関係において一つとなったと感じることである。殊に、神の子として育て上げられるために、諸物の源泉にして父なる神と一致する時においてこのように感じられるのである」という「生の合一」を強調している⁴³⁾。これは女性の心情の内に眠る予感能力の重要性を説くものであり、すべての女性の心の中に

は、子どもを愛する感情が宿っており、この感覚こそが神、自然、そして人類との内的統一へと導くだけでなく、それら相互の統一へと導く。しかし、人類の幸福に携わる者としての使命の尊厳は、女性が神と一体となった明瞭さ、深さの中に到達した時にしか得ることができない。それを実現させたのがクーパーである。クーパーは朝、シルバー・ストリート幼稚園を訪問し、夜にはジャクソン・ストリート幼稚園の構想を描いていたと言う⁴⁴⁾。シルバー・ストリート幼稚園の見学は、クーパーの中に眠っていた人類の幸福に携わる者としての神聖な職業意識が「神との合一」をもって与えられたのである。

フレーベルほど、女性が乳幼児期の教育に適していると強力かつ説得的に語った人物はいない。それはクーパーら女性たちに与えられるべき崇高な職務を誰よりもはっきりと認識していたからである。それゆえ、ウィギンが「私たちがフレーベルの哲学を研究する時、フレーベルが奨励し、しばしば反復していたのは何だったのか。フレーベルの計画の中で重要と考えられた実物教授や恩物・作業に関する特別な指示ではない。こうした観点は、子ども自身の人格の涵養、外界、仲間、神との関係に関する彼の度重なる勧告に比べれば取るに足りないもの」だと述べ、女性たちの「生の合一」を求めたのである⁴⁵⁾。

ところで、サンフランシスコ公立幼稚園協会は1881年、最も有益な教育的慈善を必要としているシルバー・ストリート幼稚園の支援から手を引き、マーケット・ストリートに協会の移転を決めた。ウィギンと妹ノーラ・スミスは1882年1月、旧シルバー・ストリート幼稚園の小さな支部に新シルバー・ストリート幼稚園協会を立ち上げた。家賃さえ払えない厳しい財政的苦境の中、新シルバー・ストリート幼稚園開園に向け、古い建物を改築し、新しい家具や備品をクレジットで購入した。アドラーがシルバー・ストリート幼稚園開園のために調達した資金は130ドルであったことを考慮するなら、ウィギンらの行動は無謀でしかない。しかし、ウィギンは「人口過密な大都市近隣に無償幼稚園は不可欠である」という信念を曲げなかった。そして、富豪で知られるクロッカー家の娘ハッティ（Crocker, H.）に経済的支援を求める手紙を書き、その信念は実現された。ハッティが主任教師ノーラと80人の子どもたちに必要な財政的支援を申し入れたことから、1882年4月には、第2の新シルバー・ストリート幼稚園がカリフォルニア幼稚園養成校の卒業生指導のもとに開園された。さらに83年10月1日、新シルバー・ストリート幼稚園協会は第3の幼稚園を設立。この幼稚園は幼稚園事業に尽力したピーボディの名を冠し、ピーボディ幼稚園と呼ばれた⁴⁶⁾。

さて、ウィギンが多難を乗り越えて実現させようとした無償幼稚園運動が目指した教育理念とはどのようなものだったのだろうか。ウィギンは、頹廢する都市におい

てはびこる悪徳を身に付ける貧困層の子どもたちとその家庭環境を次のように描いている。子どもたちは3つの異なった家庭環境に置かれている。第1のグループは古着屋や小さな酒場経営者、廃品卸売業者、洋服屋などといった二流の商売人の家庭の子どもたちである。こうした家庭では、両親ともにその時間と関心が商売に向き、子どもたちには向けられていない。子どもはきちんと食事を与えられ、身なりもよい点で、恵まれた家庭環境に置かれている。しかし、子どもは歩き始めた時から、通りが学校の機能を果たし、その中で多くのことを学び取ってくる。第2のグループは父親が行商人、いかげやなど日雇いとして雇われている家庭の子どもたちである。母親は家庭にいて、子どもを養育する役目を家事の手伝いをさせながら果たしている親もいる。しかし、その多くは人生に疲れ果て、わずかな収入を酒に費やし、ついには溺れて自らや家族の管理を誤る。第3のグループはさらに下層の家庭で、子どもたちを間違いなく犯罪者に仕立て上げていく。こうした家庭では、父か母、あるいは両親が刑務所に入っている。母親自身が売春や悪習の中に身を置き、家庭は犬小屋のようで、調和や平安からはかけ離れている⁴⁷⁾。

このように、子どもたちは極めて厳しい環境下に置かれていた。とはいえ、ウィギンはカリフォルニアが他の都市に比べ、新鮮で心地よい空気や温暖な気候に恵まれている点で有利だと捉えていた。通りは子どもたちに道徳的頹廢を学ばせる危険はあっても、暑さや寒さの危険を与えることが少ないからである。3つの異なった家庭環境に置かれた子どもたちが共通に持つ問題は、飲酒であった。親は子どもに空腹や汚い服を強いても、なげなしの収入をお酒に費やす。子どもたちは酒場や食料品店に買いにやられ、従順である褒美としてグラスに残った最後の一口を与えて貰う。ある少女はアルコールの臭いが漂う口で、よい子にしていると父から貰うウイスキーがいかに素晴らしいかをウィギンに語ったという。子どもたちはブロックや棒で組み立てる際にも、ビールやウイスキーの話が必然的に始まり、想像上の「パーティ」を持ちたいと言って、ミニチュアの宴会を開いた⁴⁸⁾。

こうした子どもたちに対し、幼稚園は当時の社会が求める「礼儀、勤勉、儉約、独立心や誠実さを発展させる最も有効な機関の一つ」として捉えられた。ウィギンによれば、幼稚園は聖書の御言葉にある「あらゆる努力をして、信仰には徳を；徳には知識を；知識には自制を；自制には忍耐を；忍耐には敬虔を」、さらには敬虔に兄弟愛を加えうるものとして、その必要性が認められたのである⁴⁹⁾。

3. 幼稚園の1日と子どもの生活・遊び

表1はシルバー・ストリート幼稚園のプログラムであ

る。これにそって、子どもたちの1日の生活を見ておこう⁵⁰⁾。子どもたちは8時30分までには、庭に出て、9時頃には列に並び始める。教員たちは素早く、子どもたちの顔や手を細かく視診し、ハンカチなどを調べる。ピアノ係の助手が演奏する快活な行進曲を合図に、子どもたちは見事なステップを踏み、歌ったり、踊ったりしながら、行進し部屋へと向かう。部屋に入ると互いに手を取り合って大きな円を作り、音楽が段々静かになるのに合わせて頭を垂れ、簡単な朝の祈りの歌が始まる。お祈りが終わると、子どもたちは教員に導かれながら、生まれたばかりの弟妹のこと、来週に家族と行くサーカスのこと、新しい靴とストッキングについて話し始める。こうして、9時から9時30分までの全員によるお話と歌の時間が終わる。

9時30分になると、大きな部屋の4隅に“家族”と呼ばれるグループごとに分かれ、恩物や作業が始まり、30分ほど続く。部屋の中央はゲーム、体操、身体活動などができるよう空けられている。これが終わると子どもたちは全員庭に出て、15分から20分間の戸外遊びに移る。10時30分になると室内に戻り、フレーベルの『母の歌と愛撫の歌』によるゲームを挟んで、11時から再び、恩物・作業が始まる。

保育室で実践されるフレーベルのゲームは、伴奏の曲に子どもの身体が促され、活動へと駆り立てられるうちに、不作法な振る舞いも消えていく。そして、自分本位な心は努力の結果もたらされる美の感覚によって、その出現さえ覆い隠される。子どもたちに人気のあるゲームの1つに、自然を模倣したのものがある。小さな虫がさなぎの中で体をくねらせた後、眠りに入る。静寂のうちに、蝶になった子どもはさなぎを離れ、花になっている子どものから蜂蜜を吸いながら、花園のまわりを飛び回る運動遊びである。

図1は、ウィギンが使った手工本のサンプルである⁵¹⁾。

これらは養成校の学生たちの作品であり、子どもたちが切り絵、縫取り、図画、刺紙などをするモデルとして使われたと考えられる。

さて、恩物の時間に見られる子どもたちの活動に注目しておこう⁵²⁾。子どもたちは各自、箱に入った恩物を与えられ、教員の指示通りに積み上げていくのではない。工場を作りたくても、手持ちの



図1

表1 プログラム

お話と歌が9時から9時30分まで行われる。最初の恩物・作業は9時30分から10時5分まで。次の恩物・作業は11時から11時45分まで。ゲームは10時30分である。このプログラムには歌、ゲーム、行進や体操は含まれていない。

朝	第1級 (5~6歳)	第2級	第3級	第4級 (3~4歳)
月曜日	*恩物 お話による学級の組立	f 刺画あるいは板並べ 図画帳	f 恩物 ff 図画帳	ff 棒やモノによる書取 f 織紙
火曜日	f 棒による書取 *切り絵、塑像	*恩物 ff 織紙	f 刺画 f 縫取り	ff 図画 f 縫取り
水曜日	f 描画による書取 *折り紙	f 棒による書取 f 縫取り	ff 棒並べ ff 石盤図画	*恩物 f 色又は造形
木曜日	*数 f 織紙	ff 描画による書取 *折り紙	f 数 ff 織紙	f 刺紙 f 折り紙
金曜日	f 刺紙又は縫取り ff 図画帳	ff 数 *造形又は切り紙	*色又は板並べ f 折り紙	f 数 f 縫取り
昼	昼 食			
月曜日	f 発明	ff 刺紙又は板並べ	*とff第4級とボール練習	
火曜日	*お話 (全学級)			
水曜日	ffとf ボールの練習		*環並べ 造形又は縫取り	f 輪郭描法
木曜日	全級による自由練習			
金曜日	*一週間の仕事の完成	f 板並べ	ff 推理ゲーム;又は貝殻・環・粒	f 図画帳又は縫取り

*指導者による課業 f 第1助手による課業 ff 第2助手による課業 f 第3助手による課業
こうした助手は養成校の学生である。クラスの各メンバーが規則的に順次働いている。

(出典) Wiggin, K. D., *Report of the San Francisco Public Kindergarten Society for the Three Years Ending September 1st, 1881*, p.24.

積木では足りないなら、仲間と協同して、もっと大きな共通の目標を目指すよう励まされる。そして、各自はその一部を組み立てる。子どもたちはその時、知恵を絞り、工夫しながら頑丈な建物に仕上げていく。なぜなら、粗悪で直ぐに崩れるような建物は自分たちの意思を挫くからである。こうした協同作業に取り組む中で、ウィギンらは組織的労働や有益な作業を愛する子どもに育て上げようとした。それゆえ、仕事は報酬として子どもに与えられるのであって、次々とルールを破るような子どもの場合には、罰として仕事を取り上げられたのである。

表2は、ノーラ・スミスが指導していたクロッカー幼

稚園で、学期の最後に実施された主題に基づいた活動プログラムである⁵³⁾。この農場あるいは田舎の生活プログラムでは、朝のお話、砂場、もろもろの細部や出来事などが省略され、1つの主題のもとに選択された活動が展開していく。勿論、主題は柔軟なものであり、活気に満ち溢れた興味に時間を譲るのは当然であった。例えば、熊使いが通りに現れた時、サーカスで遊び、「ベルンの熊の穴」の絵を持ち出し、噛みつき合って遊んだり、冬眠のための備えなどの話を聞いたりする。主題は季節によって変化する。冬の雨が降った後には、碎土して土を耕し、作付けしたり、幼い動物の世話をしたりする。一

表2 農場あるいは田舎の生活

物語	歌とゲーム	恩物課業	作業
小さなベンはどうやって蚕を育てたの	耕作と開拓	ボールを使って果物の収穫や庭の種蒔きを表現する。	粘土で卵、果物、野菜を作る。
アヒルを抱く雌鳥	農夫	第2恩物を使う；立方体は農場の生産物、球体や円柱は輸送される箱として利用する。	鋤、まぐわ、熊手、シャベルなどの絵を描く。
	納屋の前庭		
私が小さな少女であった時	鶏		鶏と家畜を縫取りにする。
	農場の声	鳥小屋、納屋、水桶を織紙にする。	
	刈り人	折り紙で水車、豚、兎、種の箱を作る。	
	果樹園		

(出典) *Annual Statement of the Silver Street Kindergarten Society for the Year Ending December 31st, 1891*, C. A. Murdock & Co., 1892, p.11

表3 特別プログラム：海

物語	歌とゲーム	恩物課業	作業
アクワ、水の赤ん坊	風と波はどんな風と一緒に踊るの	第1 恩物の球体を使って、貝殻を採集したり、小石を集めたりする。	海ガメ、貝殻、ボートを作る。
川魚が海の魚を訪ねる	幸福な魚		潜水鐘、貝殻、魚を画く。
小さな珊瑚は満足しない	漁師	第2 恩物を使って、蒸気船と灯台を作る。第10恩物の粒を加えて、珊瑚、真珠のネックレスを作る。	ザリガニ、海草、カニ、漁網を刺紙や縫取りにする。
海洋旅行者	魚売り		船、鳥、珊瑚、海の動物を切紙や織紙にする。
灯台守の子どもたち	静かな船遊び		灯台、魚入れ、筏の板並べと組紙にする。
鯨の赤ちゃん	船		ブロック、棒、板、環を使って、汽船、灯台、波止場、魚河岸、船、波、脱衣室を作る。
	水滴		砂箱に船旅のイメージを表現する：砂の波の上に、組立恩物でボート、汽船、海岸を作る。

(出典) California Kindergarten Training School., *Chips from a Kindergarten Workshop*, 1892, p.41

方、夏には果物とベリーを集めたり、草を刈り込み、干し草を熊手で掃き寄せたりする。秋には、ジャガイモを掘り返し、野菜を収穫したり、穀物を製粉所に運んで感謝祭の準備をしたりする。こうした仕事の後、物語、歌とゲーム、恩物、作業などでその経験を表現していく。

養成校の学生たちも子どもたちと経験を分かち合い、各自で主題を選び、案を練り上げていく。表3は、二葉幼稚園の創設者、森島峰がウィギンから引き継いだノーラの養成校に留学していた時に立てた海のプログラムである⁵⁴⁾。

こうしたウィギンらの実践では、ブローらが子どもを規律に従わせるために厳しく統制するのに対し、ウィギンの人間性に触れ、両者が喜びと満足の経験を共有することを通して、子どもたちが自らコントロールする力を育んでいく。ウィギンがマーウェデルから学んだ子どもに寄り添う保育者の有り様は、観察力と記録による的確な子ども理解をもたらし、鯨岡の指摘するように、「保育者の豊かな人間性がいてねいな両義的対応を紡ぎ出し、その紡ぎ出されたいてねいな両義的対応が願わしい結果をもたらし、それが再び当該保育者の人間性に肯定的な経験として沈殿していくというように良い循環がめぐる基盤となっていた⁵⁵⁾。ウィギンが子どもの守護者と言われるのは、子どもの変容を信じ祈りつつ堪え忍ぶ実践者であり、子どもを守るためには果敢な戦士であった生き方にある。

おわりに

19世紀アメリカのフレーベル主義幼稚園の2つの流れを代表するブローら公立幼稚園と、無償幼稚園の指導者であるケイト・D・ウィギンの保育実践を対比することによって、教員の専門性としての人間性がもたらす大き

な相違点を浮き彫りにした。

シルバー・ストリート幼稚園の開園当初、マーウェデルによれば、野蛮な浮浪児たちが、初日から喧嘩を引き起こし、引っ掻き傷、鼻血や顔の傷を負う者を続出させた。子どもたちはウィギンが前もって計画した活動の流れを打ち破り、予想を超えた腹ただしさと辛苦を彼女に与えた。プログラム通りに保育を進めたくても進めようがない状況に追い込まれた結果、ウィギンはマーウェデルから学んだフレーベル主義教育の原点に立ち返り、目の前にいる子どもたちに何が必要であり、自分に何ができるかを考えさせたのである。ウィギンは子どもと真剣に向き合わざるを得なかった。この子どもを信じ、要求に応えようとする姿勢こそがフレーベル主義者ブローの保育実践との違いを生み出す結果をもたらしたのだと考えられる。

注

- 1) Schon, A., *Educating the reflective Practitioner: Toward a New Design for Teaching and Learning in the Profession*, Jossey-Bass, 1987. ショーン, 佐藤学・秋田喜代美訳『専門家の知恵』ゆるみ出版, 2001年。
- 2) 「保育者の成長と専門性」『発達』83号, ミネルヴァ書房, 2000年, 1-74頁。
- 3) 松平信久「保育者は何を期待されてきたか」同上, 2-8頁。
- 4) 鯨岡 竣「保育者の専門性とはなにか」同上, 53-60頁。
- 5) 津守 真「保育者の地平」同上, 61-67頁。
- 6) 津守真・久保いと・本田和子共著『幼稚園の歴史』厚生閣, 132-137頁。
- 7) Shapiro, M. S., *Child's Garden: The Kindergarten*

- Movement from Froebel to Dewey*, The Pennsylvania State University Press, 1983, pp.30-31. Beatty, B. *Preschool Education in America: The Culture of Young from the Colonial Era to the Present*, Yale University Press, 1995, p.53.
- 8) Snyder, A., *Dauntless Women in Childhood Education 1856-1931*, Association for Childhood Education International, 1972, p. 31.
- 9) Shapiro, op. cit., pp.73-74.
- 10) Vandewalker, N. C., *The Kindergarten in American Education*, Macmillan Co., 1908, p.18. Shapiro, op. cit., pp. 73-78.
- 11) Shapiro, *ibid.*, p.79-80.
- 12) Harris, W. H., “Kindergarten in the Public School System,” *American Journal of Education*, 31, 1881, pp.625-626.
- 13) Harris, W. H., *Psychologic Foundations of Education: An Attempt to Show the Genesis of the Higher Faculties of the Mind*, D. Applton and Company, 1898, p.317, Reprinted by Arno Press, 1969.
- 14) *ibid.*, p.319.
- 15) Harris, (no.12 above), p.634.
- 16) Harris, W. H., “Report from a Department of Subcommittee on Kindergarten,” *Journal of Social Science*, XII, 1880, p.9.
- 17) Harris, W., “Report of the Superintendent,” *Twenty-first Annual Report of the Board of Directors of the Year Ending August 1875*, 1876, pp.95-100, Reprinted in R. H. Bremner (ed.), *Children and Youth in American: A Documentary History*, Vol. II, 1866-1932, Harvard University Press, 1971, p.1454.
- 18) Shapiro, op. cit., p.79.
- 19) *ibid.*, p.88. “Charity Kindergarten in the United States,” *American Journal of Education*, 31, 1881, p. 651.
- 20) Blow, S. E., *Symbolic Education: A Commentary on Froebel’s “Mother Play”*, D. Appleton & Co., 1894, pp. 103-104.
- 21) Froebel, F., *Mother- Play and Nursery Songs*, trans., Dwight, F. E. & Jarvis, J., Lothrop, Lee & Shep and Co., 1878, pp.78-79.
- 22) Troen, S. K., *The Public and the Schools: Shaping the St. Louis System, 1838-1920*, University of Missouri Press, 1975, pp.104-105.
- 23) Harrison, E., *Sketches Along Life’s Road*, Stanford Co., 1930, p.71.
- 24) Wiggin, K. D., *My Garden of Memory: An Autobiography*, Houghton Mufflin Co., 1923, pp.89-91.
- Rather, L., *Miss Kate: Kate Douglas Wiggin in San Francisco*, Rather Press, 1980, pp.10-11.
- 25) Wiggin, op. cit., pp.92-95.
- 26) *ibid.*, pp.95-96.
- 27) *ibid.*, p.96 & p.98.
- 28) *ibid.*, pp.96-97.
- 29) Fisher, L., “The Kindergarten,” in United States Bureau of Education, *Report of the Commissioner of Education for the Year Ending June, 1903*, Vol.1, Government Printing Office, 1905, p.694.
- 30) Marwedel, E., “Kindergarten Work in California,” in H. Barnard (ed.), *Papers on Froebel’s Kindergarten, with Suggestion on Principles and Methods of Child Culture in Different Countries*, Office of Barnard’s American Journal of Education, p.667.
- 31) Wiggin, op. cit., p.111.
- 32) *ibid.*, p. 112.
- 33) *ibid.*, pp.112-113.
- 34) *ibid.*, pp.113-114.
- 35) *ibid.*, p.114.
- 36) *ibid.*, pp.116-118.
- 37) Marwedel, op. cit., p.669.
- 38) Wiggin, K. D. & Smith, N. A., *Kindergarten Principles and Practice*, Houghton, Mifflin & Co., 1896, p.1. ウィギンはピーボデイの言葉を引用しながら、幼稚園教員の技術と伝道の役割を説いている。
- 39) Vandewalker, op. cit., p.59.
- 40) Smith, K. D., *Report of the San Francisco Public Kindergarten Society for the Three Years Ending September 1st*, 1881, p.17. (カリフォルニア大学バークレー校のバンククロフト図書館所蔵。) ジャクソン幼稚園協会は1884年、合併しゴールデンゲート幼稚園協会となった。はしかなどが流行すれば、在園する14人から150人の子どもたちがなくなるほど、家庭・地域環境は劣悪であった。1886年までに、カリフォルニア州には28の幼稚園が設立されたが、その内23園までがサンフランシスコに集中している事実から見ても、2人の無償幼稚園の事業拡大に及ぼした影響力は量り知れない。クーパーが亡くなる前年の1895年までに、ゴールデンゲート幼稚園協会は園児数3,588名を収容する40クラスを運営するまでに発展した。(Golden Gate Kindergarten Association, “Golden Gate Kindergarten Association, 1879-1979,” Association, 1979, pp.3-4.)
- 41) Smith, N. A., *The Kindergarten in a Nutshell: A Handbook for the Home*, Curtis Publishing Co., 1899, p.13.
- 42) *ibid.*, pp.2-3. 妹ノーラ・スミスは1880年に、ウィギンが開校したカリフォルニア幼稚園教員養成校の第1

期卒業生である。

- 43) Wiggin & Smith, *Kindergarten Principles and Practice*, p.51. 女性の心情の内に眠る予感能力の重要性はウィギンの実践や、マーウェデルによる養成校での指導から明らかとなる。ウィギンの実践は拙著「無償幼稚園における子どもの生活形態と母親教育—ケート・D・ウィギンの実践を通して—」『鳴門教育大学研究紀要』第22巻, 2007年, 86-95頁を参照。また、マーウェデルの教員養成の実際は、拙著「幼稚園教員の専門性としての共感—エマ・マーウェデルの保育と幼稚園教員養成の実際をてがかりに—」『鳴門教育大学研究紀要』第24巻, 2009年, 1-12頁を参照。
- 44) Marwedel, op. cit., p.899.
- 45) Wiggin & Smith, *Kindergarten Principles and Practice*, p.51.
- 46) [Wiggin, K. D.], *Superintendent Report of the Work of the New Silver St. Kindergarten Society, Since January 1st, 1882 and a History of the Free Kindergarten Movement*, C. A. Murdock, n.d., pp.9-11. ノーラが指導した新シルバー・ストリート幼稚園はクロッカーの支援を讃え、クロッカー幼稚園と称された。(バンクロフト図書館所蔵)
- 47) *ibid.*, pp.24-25.
- 48) *ibid.*, pp.25-26.
- 49) *ibid.*, p.4.
- 50) *ibid.* pp.17-21. Rather, L., *Miss Kate: Kate Douglas Wiggin in San Francisco*, Rather Press, pp.46-47.
- 51) Guide to the Kate Douglas Wiggin Collection. (サンノゼ州立大学キング図書館所蔵)
- 52) [Wiggin, K. D.], *Eight Annual Statement of the Silver Street Kindergarten Society for the Year Ending December 31st, 1889*, C. A. Murdock, 1890, pp.10-12. (バンクロフト図書館所蔵)
- 53) *Annual Statement of the Silver Street Kindergarten Society for the Year Ending December 31st, 1891*, C. A. Murdock, 1892, pp.10-11.
- 54) California Kindergarten Training School, *Chips from a Kindergarten Workshop*, 1892, p.41. (バンクロフト図書館所蔵)
- 55) 鯨岡, 前掲, 57頁。